

# 読書推進運動


 公益社団法人  
**読書推進運動協議会**  
 〒101-0051  
 東京都千代田区神田神保町1-32  
 出版クラブビル6階  
 TEL 03(5244)5270  
 FAX 03(5244)5271  
 発行人 小塚 昌弘  
 編集人 片岡 伸子

No.627

★伊藤忠記念財団子ども文庫助成先決定(2・3頁)

★『2018年度全国読書グループ総覧』6月刊行へ(5頁)

定価 60円

会員の購読料は  
会費の中に含まれる



## 子どもと本をつなげる多彩な取組

伊藤忠記念財団  
子ども文庫助成選考委員長

しま ひろし  
**島 弘**

公益財団法人伊藤忠記念財団は、1974年に設立され、翌1975年から子ども文庫助成事業を行っています。子ども文庫助成は、子ども文庫の活動だけでなく、読み聞かせグループなど、地域で子どもと子どもの本をつなぐ活動も支援しています。

現在、記念財団の事業は、子ども文庫助成事業と電子図書普及事業があり、子ども文庫助成事業は、①子どもの本購入費助成、②病院・施設子ども読書活動費助成、③子ども本100冊助成、④子ども文庫功労賞の4つの柱で構成されています\*。

私は、2016年から選考委員を務めています。当初、子ども文庫助成ということ、文庫からの応募が多いこと

の思っていました。申請では、読み聞かせやパネルシアター、紙芝居などを使い、学校や図書館、保育園などに向けて活動する多くのグループからの応募に戸惑ったことを覚えています。

2019年をみてみると、文庫からの応募は23.3%、読み聞かせなどの実演グループからは54.2%です。実演グループなどの申請内容を見ると、大型絵本、大型紙芝居の舞台、ペープサートなど大きな場所を想定したものや、ギターなど音楽を取り入れた読み聞かせなどがありました。子どもたちに物語の楽しさを知ってもらうことは大切なことですが、大きな場所では、子どもたちの表情がわかるのだろうかとし心配に

なっていました。申請の内容からは、各地で行われているいろいろな活動をみる事ができます。毎週、子どもを対象に活動されている文庫だけでなく、お母さんもリラックスして過ごせ、ママ会に使ってもよいとする文庫もありました。

弱視の子どもたちへの活動、障がい児放課後デイサービスや小児病院・子育て支援施設で読み聞かせをするグループもありました。また、科学への関心を高めようとする活動、子ども食堂で食事のあとに本も読んでもらおうと活動するグループもありました。子どもと本をつなげるために、独自の工夫をされているグループもありました。「置き本」という方法です。それ

は、幼稚園・保育園・小学校などのおはなし会の後、読んで本を一定期間教室に置いてくるという方法です。実演グループは通常、子どもたちがいる場所に向き、読み聞かせなどを行い、物語を楽しんでもらいますが、そのときだけになる可能性があまりありません。この「置き本」は、その後も紹介された本を子どもたちが楽しむことができるのだと思います。

このように申請されたグループは、子どもと本をキーワードにいろいろな活動を繰り広げています。また、子どもの本の勉強会を続けているグループもありました。本との出会いをとおして子どもの成長を育むためには、街全体の取組が大切です。市町村立図書館や学校図書館がしっかりとその役割を果たしているのか、個々の活動の充実とともに、街の読書への取組についても目を向けてもらいたいと思います。

\* <https://www.itczaidan.or.jp> (伊藤忠記念財団HP)

〈2019年度〉

伊藤忠記念財団

子ども文庫助成事業

助成贈呈先決定

公益社団法人読書推進運動協議会が公益財団法人伊藤忠記念財団から委託を受け、募集および応募受付などを行っている「子ども文庫助成事業」の2019年度助成贈呈先が決定しました(計69件)。

本年度の応募件数は、子どもの本購入費助成70件、子どもの本冊助成53件の計123件(病院・施設子ども読書活動費助成含む)。

この助成事業は、伊藤忠記念財団が子ども読書について啓発、指導に関する民間の有益な活動の目的達成のために行っており、今年度で第45回、助成件数は2402件となりました。

伊藤忠記念財団では2020年度も同助成を実施。読書推進運動協議会では、各道府県読書推進運動協議会、都道府県立図書館を通じて、全国の公共図書館へ3月中旬に募集要項を配布します。文庫や実演団体への周知をお願いします。

2020年度の応募期間は、4月〜6月を予定しております。

◆子どもの本購入費  
助成先一覧(46件)

図書購入費用(児童書、絵本など) および読書啓発活動につながる実演のための購入費用(紙芝居、人形劇、パネルシアターなど)として一律30万円を助成。助成額の半額15万円までを読書啓発に関連する講演会・研修会の開催費や参加費、および備品の購入(書架・ブックコートワイラムなど書籍管理備品、紙芝居・パネルシアターの舞台など)に使用できます。

子どもたちの読書啓発を行っている、民間の文庫や実演団体、連絡会などが対象(営利法人、大規模法人、公共機関などは対象外)。実質的に草の根運動と見なされる個人・団体であること、3年以上の活動歴があり、今後も継続した活動が見込まれることが必要です。

北海道 絵本と音楽 ゆうみつ  
北海道 えにわゆりかご会  
北海道 家庭文庫じゃんけんポン  
青森県 出崎 真里  
青森県 おはなしサークル  
虹色の会  
岩手県 たんぼおはなし会

岩手県 ほつべの会  
福島県 読み聞かせボランティア  
おはなしポケット

茨城県 おはなしキラキラ  
栃木県 壬生町子育て支援  
グループ「ポケット」

栃木県 きらめぎ煌々  
栃木県 しもつけブックベリィ  
埼玉県 ジュニアボランティア  
グループはつびいー

埼玉県 WILLOおかべ  
びよんびよん  
ブッククラブ

千葉県 長生村  
読み聞かせボランティア  
くりくりブック

東京都 東小PTAサークル  
くるまぎ

神奈川県 いずみ文庫  
神奈川県 絵本カフェ・  
チョコリラ

新潟県 新潟アニマシオン研究会  
石川県 くまつこ隊  
山梨県 都留市

『こぶたの会』  
長野県 おはなしバケツト  
岐阜県 読み聞かせボランティア  
ひだまり

静岡県 しろやま読み聞かせ  
クラブ  
滋賀県 イワタニ文庫

京都府 梶文庫  
京都府 きのこ文庫  
大阪府 NPO法人  
弱視の子どもたちに  
絵本を  
大阪府 みさき絵本とおはなしを  
楽しむ会

兵庫県 はちみつ文庫  
兵庫県 ろつこう紙芝居サークル  
兵庫県 おはなしグループ  
ぐるぼ

奈良県 こども図書室  
和歌山県 マメ子おはなしの会  
岡山県 涌谷 敬子

広島県 親と子の本の広場  
あいにく館

徳島県 いちご文庫  
香川県 コットンツリーの会  
高知県 認定特定非営利活動法人  
高知こどもの図書館

アメリカ そらまめ文庫  
イギリス トテナム文庫  
オーストラリア 南十字星文庫  
オーストラリア パース  
こども文庫

イギリス たまごクラブ  
大分県 読み聞かせグループ  
「アリス」

佐賀県 江北小学校親子読書会  
ピース

読書推進運動協議会



イワタニ文庫 (滋賀県)



親と子の本の広場あいにく館 (広島県)

◆病院・施設子ども読書  
活動費助成先一覧(3件)

子どもの本購入費助成と同様に、図書購入費用および読書啓発活動につながる実演のための購入費用として一律30万円を助成。障がいを持つ子どもたちに対する読書支援機器などの購入、および、布の絵本や点字絵本などバリアフ

リー図書作成のための費用も含まれます。こちらも、助成額の半額15万円までを、講習会の開催費や参加費および備品の購入に使用することができます。

病院、障がい児施設、養護施設などの子どもたちに対して、読書啓発活動を行っている民間の団体または個人が対象（営利法人、大規模法人、公共機関などは対象外）。実質的に草の根運動と見なされること、3年以上の活動歴があり、今後も継続した活動が見込まれることが必要です。

- 東京都 特定非営利活動法人 練馬春日町幼児教室
- はじめのいっば春日町
- 石川県 石川県立中央病院 ボランティア 桜会
- 大阪府 さわる絵本連絡協議会・大阪

◆子どもの本100冊 助成先一覧(20件)

対象年齢別に「小学校低学年向け」「小学校中学年向け」「小学校高学年向け」の3セットを用意。セットはそれぞれ、同財団が選んだ100冊の図書で構成されています。助成対象は「購入費助成」病院・施設子ども読書活動費助成



いちご文庫 (福岡県)

と共通。活動歴は問いませんが、今後も継続した活動が見込まれることが必要です。

一昨年度より、2000年以降に出版された図書を中心に同財団が選んだ150冊のリストも用意され、希望する対象年齢向けセットの一部(40冊を上限とする)を、ほかの年齢向けセットと150冊リストにある図書と入れ替えることが可能となっています。

《小学校低学年向け》12件

- 埼玉県 ふじみおはなし会
- 埼玉県 子ども文庫
- なつちゃんの本棚
- 神奈川県 キッズ文庫
- 長野県 キラキラぱーく
- 愛知県 そよかぜ文庫
- 滋賀県 山中比叡平子とも図書館

- 大阪府 いまふくこども文庫
- 大阪府 こもれびカフェ×えほんごほん
- 大阪府 この指とまれ
- 大阪府 もみの木文庫
- 兵庫県 おはなしぼけつと
- 福岡県 めぐみ文庫
- 《小学校中学年向け》7件
- 宮城県 七ヶ浜町

- 「あゆみの会」
- 愛知県 すずらん文庫
- 佐賀県 家読姉
- イギリス ICBA
- 「あいうえん文庫
- イギリス ワイト文庫
- オーストラリア JCS日本語学校シテイ校
- 韓国 ソウル友の会
- 「こひつじ文庫」

《小学校高学年向け》1件

- イギリス しらす文庫

◆子ども文庫功労賞

「子ども文庫助成」プログラムのひとつ。子ども文庫を永年(20年以上)にわたり運営してきた個人で、子どもの読書啓発活動に貢献してきた方を顕彰する賞です。

1984年の第1回以来、昨年までに79名に贈られています。本年の受賞者は、上田正二さん(北海道)、山本安彦さん(山口県)の2名です。

上田さんはお連れあいととも、1984年に苫小牧市で「ピッピ文庫」を開設。ご夫妻が持ちあわせていた絵本や児童書、福祉・教育関係の図書を多くの方に利用してほしいとの思いからはじめられたそうです。1993年には「苫小牧読み聞かせ文庫活動連絡会」の設立を呼びかけ、市内の読み聞かせ活動の組織化を目指しました。現在は、週1回の文庫開館のほか、教育委員会にボランティア登録をして、幼稚園や保育園、小学校などの依頼を受けて、年間約60回の読み聞かせを実施。文庫を利用して子どもたちの低年齢化にあわせての育児支援や、地域の高齢者への読み聞かせにも取り組んでいます。

山本さんは、1980年、山口市の県営住宅集会所内に「みやの子ども文庫」を開設。以来、毎週文庫を開いてきました。「みやの子ども文庫」が中心となり、「山口市文庫の会」「山口県子ども文庫連絡会」が結成され、この流れは2000年「子ども読書年」の

「こどもと本ジョイントネット・21・山口」の設立へとつながりました。「ジョイントネット・21」は子ども読書活動優秀実践団体として文部科学大臣表彰を受けるなど、高い評価を受けています。その中心には「みやの子ども文庫」の活動があり、県全体のこども読書活動の推進に寄与していると言えます。

子ども文庫助成、子ども文庫功労賞の贈呈式は、3月6日(金)に東京都港区の伊藤忠商事ビルにて行われる予定です。

贈りものに。お礼、お返しに。

東山魁夷シリーズ



1,000円・3,000円・5,000円 10,000円

日本図書普及株式会社

■「第54回新風賞」贈賞式

### 今年の新風賞は山崎聡一郎著の『こども六法』(弘文堂刊)

全国各地方を代表する書店のネットワークである、書店新風会主催の「第54回新風賞贈賞式・新年懇親会」が、1月8日(水)、東京都新宿区のハイアットリージェンシー東京で行われた。

贈賞式では、高須大輔総務委員長が選考経過を説明、649人の会員書店の書店員が一人3冊ずつ候補作を推薦し、上位10作品から、決定した。

今回の受賞作は、むずかしい法律をイラスト入りで子どもにもわかりやすく解説した『こども六法』。著者の山崎聡一郎さんは「法律は自分を守る武器になる」「いじめ・虐待をなくすために、子ども

にも法律を知ってほしい」という意図から、慶應義塾大学在学時にこの本を企画。当初は私家版で出したが、広く市販するにあたり、クラウドファンディングで資金を



『こども六法』企画の意図や刊行までの道のりを語る山崎聡一郎さん

■「第35回梓会出版文化賞」贈呈式

### 今回は独自の哲学を持って 個性的な出版を続ける2社が受賞

1月15日(水)、東京都千代田区の如水会館で「第35回梓会出版文化賞贈呈式(主催：出版梓会)」が開催された。

この賞は優れた出版活動を継続している中小出版社を顕彰するもので、今回は機械工学系の出版物からスタートし、現在は教育関係図書が主力の異色の出版社、ジャパンマシニクス社が受賞。雑誌『ちいさい・おおい・よわい・つ

よい』『おせい・はやい・ひくい・たかい』『2タイトルの発行がとくに評価された。同特別賞には「本籍地のある本」と銘打ち、西日本地域にこだわったテーマの出版を続ける西日本出版社が選ばれた。

新聞社・通信社の文化部長が選ぶ「第16回出版梓会新聞社芸文化賞」は、『舞姫』の主人公をパンカラとアフリカ人がボコボコにする最高の小説の世界が明治に



今回の受賞者・選考委員たちの記念写真

存在したので20万字くらいかいて紹介する本』などのユニークな書籍を刊行した柏書房と『社会学はどこから来てどこへ行くのか』を刊行した有斐閣が受賞した。

■ブラチスラバ世界絵本原画展

### 日本・スロバキア交流100周年の年に『もみじのてがみ』が受賞!

1月14日(火)、東京都港区のスロバキア共和国大使館で、「第27回ブラチスラバ世界絵本原画展(BIB)贈賞式」が行われ、スロバキア共和国のマリアン・トマーシク大使より、金牌がきくちさん

に贈られた。1967年より隔年で開催されているBIBは、国際児童図書評議会またはユネスコの各国支部から推薦された絵本原画のコンクール。日本からは日本国際児童図書評議会(JBBY)が国内選考会



きくちさん、スロバキア大使ご夫妻、きくちまゆみ JBBY会長の記念写真

を実施し、出展画家と作品を選んでいる。国際審査会は各国の専門家を構成され、グランプリ1名、金のりんご賞5名、金牌5名を選出。きくちさんの『もみじのてがみ』(小峰書店)が金牌に選ばれた。きくちさんは「しろねこくろねこ」(学研プラス)で第24回のBIB(金のりんご)賞を受賞している。

前回の受賞時に生まれた息子さんが、今回お祝いに折り紙で銀メダルを作ってくれたのがうれしかったというきくちさんは、金でないのもつとがんばれという意味かな?と笑いを誘い、「(絵本の制作では)いつもものすごい数を描きます。今回も何百枚も描きました。編集者、デザイナーと喜びをわかちあえてうれしかったです。たくさんの方々にとつてもらいたい」と喜びを語った。

今年秋より、きくちさんの原画をはじめ、本年のBIB受賞作品、日本からの出展作品などを展示する「ブラチスラバ世界絵本原画展 国内巡回展」が行われる。会場スケジュールについては、JBBYホームページ(<https://jbbj.org>)を、確認ください。

「2018年度全国読書グループ調査」報告

集計作業完了！ 『全国読書グループ総覧』は6月刊行予定です

全国公共図書館協議会の全面的な協力のもと、2018年9月～11月にかけて、全国の公共図書館・類縁機関のみなさまに協力いただきました「2018年度全国読書グループ調査」の集計作業が完了いたしました。編集部が力不足のため、当初の予定より大幅に作業が遅れましたこと、お詫び申しあげます。

今回の調査は、各都道府県立図書館を通じて、都道府県下の公共図書館および類縁機関に、把握されている読書グループについて調査・回答をお願いいたしました。また、学校やその他の施設で活動しているグループについても、可能なかぎりの調査をお願いいたしました。

県の図書館・類縁機関2008館よりご回答をいただき、報告されたグループ総数は1万2364となりました。

「子どもの本」グループは9913(87増)(-)内は前回調査との比較、以下同じ。活動別グループ数は「読書会」913(16増)、「研究会」834(102増)、「実演G」8029(98増)、「文庫」1141(74減)、「読書支援」737(24増)、「環境整備」821(14増)、「友の会」131(54増)、「連絡会」686(126増)。「実演G」が突出した数字を示していますが、「文庫」以外の活動グループ数も伸びています。

2008年度調査まで減少傾向にあった「一般の本」グループは3678(32増)と2013年度調査に続き今回も増加。しかし、「子どもの本」グループ数と「一般の本」グループ数の差は6235とさらに拡大しています。活動別グループ数は「読書会」1439(181減)、「研究会」588(87

増)、「実演G」1311(339増)、「文庫」442(1増)、「読書支援」548(24増)、「環境整備」226(80増)、「友の会」122(40増)、「連絡会」221(19増)。これまで「一般の本」グループの活動の中心となっていた「読書会」が減少、「実演G」とグループ数の差がぐんと縮まりました。

今回、グループ数が減少した子どもの本の「文庫」と一般の本の「読書会」ですが、下記にあげたグループ発足年のデータを見ると、2010～2018年に発足のグループは「文庫」125、「読書会」171と、ともに新しいグループが着実に誕生しています。

編集部では、活動と発足年代のほか、活動内容の重なり、活動場所の重なり、集計と分析も終えて、現在、『2018年度全国読書グループ総覧』の編集作業を鋭意進行中です。公益社団法人読書推進運動協議会創立60周年記念号として、今年6月に刊行を予定しています。

「2018年度全国読書グループ調査」活動内容別のグループ発足年代 \*( )内は総数における割合

Table with 8 columns: 総数, ~1959, 1960~1969, 1970~1979, 1980~1989, 1990~1999, 2000~2009, 2010~2018. Rows include categories like 読書会, 研究会, 実演G, 文庫, 読書支援, 環境整備, 友の会, 連絡会.

### 優良読書グループの歩み (2)

2019年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。  
(順不同)

#### おはなしと人形劇の「まざあぐす」

代表者 大音 由里

栃木県鹿沼市

〈推薦〉

栃木県読書推進運動協議会

私たちのグループは、1981年に、「人形劇サークルまざあぐす」という名前で、20代の働く若者たちによって発足しました。現在は、ほとんどのメンバーは入れ替わり、40〜60代の女性のメンバーで活動しています。

おもな活動は、人形劇をメインにパネルシアターやスライド絵本などを使った《おはなし会》です。公演場所は、小学校・図書館・保育園・幼稚園・福祉施設・イベントなどで、年間40回以上、上演しています。そのほかに、毎週土曜日に鹿沼市立図書館栗野館で、絵本や紙芝居の《読み聞かせ》、依頼があれば、読み聞かせやパネルシアターの《講習会》なども行つ

ています。また、小学校の公演終了後に、子どもたちに舞台裏を見学してもらい、人形を動かすなどの《人形劇講習会》も行っています。

人形劇は、脚本・人形・舞臺道具・音楽もメンバーによる手づくりで、歌あり踊りありの、子どもから大人まで楽しめる作品になっております。内容も、「命の尊さ」や、「やさしさ」「環境問題」など、楽しいなかにも子どもたちに伝えたいメッセージを盛りこみ、子どもたちの心の栄養となるよう心がけて脚色しています。人形や舞台も、プロの作品を観て感性を磨き、心をこめて製作し、演じています。人形劇以外の作品も、子どもたちの想像力を育み心豊かになるような作品を選んでお話ししています。おかげさまで、子どもたちはもちろん、大人の方々にもとても好評です。

小学校や図書館の公演は、鹿沼市からの委託事業になっております。いままで続けてこられ

たのも、そのような行政の理解ある対応の賜物だと思っております。鹿沼市立図書館、鹿沼市生涯学習課の方々には、とても感謝しております。

子どもたちの夢のある心に響くおはなし・ワクワクドキの生の感動を届け、見た子どもたちが物語の世界に入つて遊ぶ楽しさを味わい、それをきっかけに本を読む楽しさを知ってもらえればと願つて活動しています。

いろいろな苦労もありますが、子どもたちのキラキラと目を輝かせて真剣に劇に見入る姿や、笑顔で「また来てね」という声に支えられて、子どもたちから元氣をもらつて活動しています。



「まざあぐす」の人形劇は子どもにも大人にも大人気！

#### トロール

代表者 渡辺 聖子

岐阜県瑞浪市

〈推薦〉

岐阜県読書推進運動協議会

私たちの活動は、1974年2月、瑞浪市民図書館で幼児・児童向けの「おはなしのじかん」としてはじまりました。

はじめたころの参加者は息子たちだけでしたが、しだいに参加する子どもが増えていきました。

1984年、待望の新しい図書館が完成し、夏休みには館外へ出かけて「こかげとしよかん」を開くなど、私たちの活動も広がりました。

現在トロールのメンバーは6名。月2回、隔週の土曜日午後2時から3時まで、絵本、紙芝居、ストーリーテリング、手遊び、などなぞをやっています。子どもたちは、なぞなぞが大好き。大人が思いもつかない迷答？に大笑い。なぞなぞ博士もいます。

以前は小学生の参加もあり、子どもたちの年齢もさまざまなので、絵本は数冊準備し、季節感のある本や、身近な生物や植物の本、



子どもたちの宝ものになる絵本を届けたい

大型絵本も選びましたが、近ごろは塾や習いごとで忙しいのか、幼児が中心です。

お父さんと来館し、お父さんの膝の上で聞いている、ほほえましい姿も見かけます。

トロールのもうひとつの活動に、人形劇があります。図書館のクリスマス会や、依頼があれば、児童館や学童保育所へも出かけます。絵本とは違うナマの反応があるのので、私たちもドキドキですが、子どもたちの笑顔がエネルギーの源です。

いまは、パソコンやDVDなど便利な品物があふれ、すぐ答えを求めがちです。こんな時代であるからこそ、絵本の役割は大切だと

考えます。

子ども時代に出会った本は宝もの。読書は種まきに似ています。将来、どんなふうになり、どんな花を咲かせるのか楽しみです。

私たちの活動を若い世代に引き継いでいくのが、いまの課題となっています。

### おひさま文庫

代表者 土肥 甲子  
広島県竹原市

〈推薦〉  
広島県読書推進運動協議会

おひさま文庫は、2011年10月にスタートしました。会場は、主人が宮司を務めている神社の社務所の一室です。

代表の私は、竹原市内で地域文庫を30年近くしていました。吉名町に引っ越してきて、地元でもぜひとも文庫を開きたいという思いではじめました。

当初のメンバーは、3人でしたが、絵本の会に参加していたお母さん方が加わってくれて、いまは7人ががんばっています。

活動は、月1回(第4土曜日、2時から)です。内容は、絵本の読み語り4冊、紙芝居1冊、手遊

び、関連絵本の紹介もしています。絵本の会が終わったら手づくりのおやつを食べ、そのあとは季節の折り紙、工作、ときには庭でバウムクーヘンを作ったり、餅つきをしたりします。

5月は、「木かげ絵本の会」。境内の桜の木の下で絵本の会をします。ときに、車の音が邪魔されながらも、緑のなかの絵本の会は、いつもと雰囲気違って、子どもたちも元氣いっぱい声を返してくれます。

9月は、「お月見絵本の会」。夜の絵本の会です。社殿で大型絵本、ブラックシアター、ペープサートなどなど、夜ならではのメニューで楽しみます。このときは、ふだんの会には来られない子どもたちやお父さん・お母さんで社殿がいつぱいになります。絵本の会のあとは、真つ暗な神社を一回りする肝試しが待っています。高学年の男の子がおぼけ役になり活躍してくれます。子どもたちは怖いながらも、何回もまわりたいがります。

このほか、10月は、ハロウィン、12月はクリスマスで盛りあがりま

す。  
2014年からは、おひさま文庫のメンバーで吉名小学校(現在、吉名学園)の朝読の時間に入って

います。メンバーのほとんどが、フルタイムの仕事を持ちながらの活動は、厳しいときもありますが、これからも、見えないものを大切にして、子どもたちへ1冊でも多くの絵本を届けられるよう、がんばっていきたいと思います。

### 深江おはなしネットワーク

代表者 鞆 典子  
長崎県南島原市

〈推薦〉  
長崎県読書推進運動協議会

2009年、深江町内3つの小学校の保護者が、子どもたちが落ち着いた学校生活をおくるための読書環境をつくりたいとの思いで読み聞かせ活動をはじめたことを機に、「深江おはなしネットワーク」が発足しました。小学校での朝の読み聞かせを中心に、赤ちゃんおはなし会、ブックスタート、老人施設での読み聞かせなど活動の幅が広がってきました。

私たちが大切に行っている活動のひとつは、8月9日(原爆が落とされた長崎は、毎年その日を県下一斉に小中高の登校日として、平和集会を行っている)の平和集会への参加です。集会では、被爆者

の体験を朗読劇や紙芝居にしたものを、映像や効果音を用いて上演しています。今年度で11回になりました。被爆者の高齢化で、当時のことを聞くことがむずかしくなりつつあることから、私たちが次世代に語り継がなければならない使命をもつて参加しています。上演後、子どもたち一人ひとりから感想がよせられ、微力ながらも続けていくことに意味があることを仲間と確認しあっています。

また、自分たちの力量を高めようと、2015年より「九州・沖縄おはなし交流会」に毎年参加し素話のよさにふれ、よい学習の場になっています。2017年の熊本大会では君川みち子さん(ほお

ずきの会主宰、NPO法人語り手たちの会副理事長)との出会いがあり、素話の魅力にとりつかれました。その後、ぜひ君川さんをお招きして素話を学びたいと、実行委員会を立ちあげ準備を進め、2018年の4月に実現することができました。それをきっかけに素話に挑戦する仲間が増え、君川ワールドを目指しているところ

です。  
年に数回、仲間がよって、おすすめ本の紹介や選書のしかた、絵本の読み聞かせの手法を研修したり、市主催の「読書サポーター養成講座」に参加し学んでいます。

仲間どうしの連携を深めるために定期的にまたよりを発行したり、グループラインで読み聞かせの本や子どもたちの反応を交換したりしています。

今後、たくさん子どもたちが参加する図書館まつりや、市内で行われる「おはなしカーニバル」に向けて、手づくりの紙芝居やペープサートなどを制作していきたいと考えています。

読み聞かせの活動を通じて、ともに想像の世界を楽しんだり、幸せな時間を共有したりすることで、人生を豊かにする読書の礎を築いていきたいと願っています。



子どもたちに平和の尊さと読書の礎を

2020年新年名刺交換会

出版クラブの「新年名刺交換会」令和初の開催

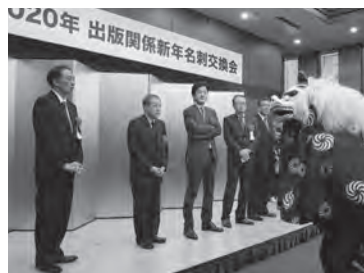
1月8日(水)、東京都千代田区のは出版クラブビルで、出版関係者が一堂に会して、「新年名刺交換会(主催：日本出版クラブ)」が開催された。参加者は500人。

野間省伸 日本出版クラブ会長は乾杯の挨拶で「今年は東京オリンピックの開催される年で、大きなイベントがある年は本が売れないといわれているが、それを言い訳にすることなく、いまから対処

するよう担当者とも話している」と述べて、業界として積極的な施策を打っていく必要を述べた。

また海賊版対策では「リーチサイトの規制を含め、著作権侵害には出版界として今後も厳しく対応していく」姿勢を明らかにした。

当日配布された出版クラブ会報でも、出版5団体の各代表が、魅力的なコンテンツの創出、新たな出版インフラの構築、メディアと



名刺交換会恒例の獅子舞

事務局報告(1月)

☆8日 機関紙「読書推進運動」626号入稿

・8日 日本出版クラブの「新年名刺交換会」に出稿

・8日 書店新風会の「第54回 新風賞贈賞式・新年懇親会」に出稿

☆9日 機関紙「読書推進運動」626号校了

・10日 文部科学省にて「子ども読書の日」ポスター1データ入稿

・14日 ブラチスババ絵本原画コンクール贈賞式に出稿

☆15日 機関紙「読書推進運動」626号出来

・15日 「子ども読書の日」ポスターについてとよたかずひこさんと打ち合わせ

・15日 出版協会の「第35回 梓文化賞贈賞式」に出稿

・16日 「上野の森 親子ブックフェスタ」について台東区、明正堂書店国際子ども図書館に協力依頼

・17日 「子ども読書推進会議」2019年度第2回幹事会 開催

☆21日 2019年度第4回 常務理事会開催。2020年度事業計画案と収支予算案を審議

・21日 「子ども読書の日」ポスターについてとよたかずひこさんと打ち合わせ

・23日 講談社社長室会に出稿

・23日 大震災出版対策本部運営委員会に出稿

・24日 「上野の森 親子ブックフェスタ」運営員会に出稿

・24日 「子ども読書の日」ポスターについてとよたかずひこさんと打ち合わせ

・27日 「上野の森 親子ブックフェスタ」について日本図書普及、日本児童教育振興財団、日本書籍出版協会に協力依頼

☆29日 「2018年度 全国読書グループ総覧」について太陽印刷と打ち合わせ

・29日 読売新聞社 新春懇親会に出稿

編集部 & 事務局のひとこと

●遅れに遅れた、「2018年度 全国読書グループ調査」の集計が、ようやく終わりました。ご協力いただいた、全国公共図書館協議会、図書館・類縁機関のみなさまには本当にお待たせしてしまい、申し訳ありません。本文にも紹介しましたとおり、今年6月、『全国読書グループ総覧』としてお届けいたします。

●グループ数、発足年代、活動内容と場所の関係など、集計しながらいろいろと考えさせられました。20年以上の歴史があるグループが減ったさみしさはありますが、読書はなれ、活字はなれと言われるいまなお、全国で新しい読書グループが誕生していることも事実です。本を読む楽しさ、本をだれかに届け共有する喜びは、世代・時代を越えて脈々と続いていくと、あらためて力をもらいました。

●ところで、時間切れとあまりにも個人的な興味なのでまだ実行していませんが、今回 私がひそかに集計したいと思っているデータがあります。それは、「読書グループ」人気ランキング。「読書会」グループ以外のランティア名に使われている名詞のランキングです。この調査と優良読書グループ表彰団体の印象からは、ポケット(ぼけつと)、「おはなしの木」(ぐりとぐら)などが上位になるとふんではいますが、いかがでしょうか? 『読書グループ総覧』を無事刊行したら地道にやってみようと思っておりますので、興味のある方、こちらも気長にお待ちください。

(伸)

特別な一冊を探す旅を子どもたちと楽しもう!



今年の「子ども読書の日」ポスター

文部科学省は、4月23日「子ども読書の日」啓発ポスターを制作

全国の公共図書館、小中高等学校、幼稚園などに配布しました。3月下旬には日本出版取次協会の協力

で、読書推進運動協議会の「子どもの読書週間」ポスターとあわせて、書店も配布される予定です。

ポスターは今年も、とよたかずひこさんの描きおろしイラスト。キヤッチフレーズは「きみの一冊をさがそう!」。大好きな本、心に残る本を子どもたちに見つけてもらいたい、そのお手伝いができる環境づくりへの期待と願いがこもったポスターです。